

# 29年10月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 10月1日～ 29年10月10日

## 2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
10月分の回答企業数は8社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### 素材生産動向

品目		29/10月	11月	12月
伐採動向	スギ	10.0	0.0	△ 20.0
	ヒノキ	0.0	16.7	△ 16.7
	カラマツ	△ 16.7	△ 33.3	△ 33.3
	エゾ・トド	0.0	33.3	33.3
出荷・販売動向	スギ	0.0	10.0	△ 10.0
	ヒノキ	0.0	33.3	0.0
	カラマツ	16.7	16.7	16.7
	エゾ・トド	0.0	33.3	33.3
手持立木在庫動向	スギ	25.0	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 16.7	△ 16.7	△ 33.3
	エゾ・トド	16.7	0.0	0.0

・スギの伐採動向は10月の増加から11月は横ばい、12月は減少に。ヒノキは10月の横ばいから11月は増加、12月は減少に。カラマツは3カ月連続減少。エゾ・トドは10月の横ばいから11月、12月は増加に。

・スギの出荷・販売動向は10月の横ばいから11月増加、12月は減少に。ヒノキは10月の横ばいから11月は増加、12月は再び横ばいに。カラマツは3カ月連続増加。エゾ・トドは10月の横ばいから11月、12月は増加に。

・スギ、エゾ・トドの手持立木在庫動向は10月の増加から11月、12月は横ばいに。ヒノキは3カ月連続横ばい推移。カラマツは3カ月連続減少。

### モニターからのコメント

#### (伐採動向)

- ・今月で国有林の素材生産請負事業が終了して、同じ国有林の立木販売個所に入る。伐採は順調に推移している（北海道）。
- ・国有林の請負事業を継続中（北海道）。
- ・スギ林4haの主伐が始まる（東北）。
- ・スギの主伐を実施（中国）。
- ・急ぎ主伐500m<sup>3</sup>の仕事をするようになったため伐採はやや増加（九州）。

#### (出材・販売動向)

- ・当地域の国有林の素材販売は、トドマツ一般素材の量が少ないことと、素材生産業者からのトドマツ流通材が少ないことから販売動向は良い。特にトドマツ小径木（北海道）。
- ・出材調整はしていない（北海道）。
- ・出材不足のためか、スギ、カラマツはやや強含み（東北）。
- ・出材調整はなし（東北）。

#### (手持ち立木在庫)

- ・これから手持ち立木を伐採していくので、立木在庫は減少傾向である。伐採した分は国有林の立木販売で補充していく予定（北海道）。
- ・請負事業を実施しているため立木在庫に変動はない（北海道）。
- ・立木の手当ては例年並み（東北）。